

目指せ男子新体操の街

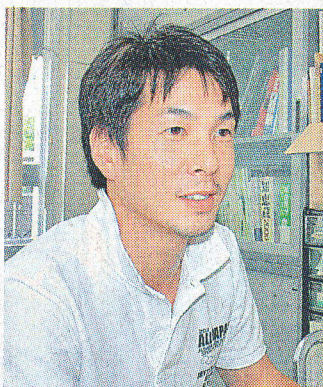
スピード感や力強さを競う男子新体操。西宮市では、西宮今津高校の男子新体操部が今夏、7年ぶりに全国高校総体（インターハイ）に出場したほか、地域スポーツクラブの中学生が10月、初めて全国大会に出場するなど、ジュニア、少年層の

活躍が顕著だ。原動力となっているのは、同高OBたち。メジャースポーツのように、地元で始め、高校でも続けられる環境をつくること、地道な取り組みを続ける。

（竹本拓也）

西宮市 中高生ら全国で活躍

県内高校で男子新体操 東さんの下で練習に打てるのは、西宮今津 ち込んだ大江誠さん（33）のほか、東播磨（加古川）現尼崎西高教諭は、市）、尼崎西（尼崎市）「いつか全国レベルのチームを作る」と高校1年1986年、東直也さんの時から指導者を志し（48）現県教委スポーツ た。中央大学に進み、団体で全国優勝を果たし、県内で初めて設けた。経験も積んだ。



「地域で新体操が学べる環境をつくりたい」と語る大江誠さん＝尼崎西高校

新体操 個人と団体（6人）があり、13歳四方のフロアマット上で3分間演技し、構成点と美施設の合計で競う。道具を操り華麗な演技で魅せる女子に対し、男子は宙返りなどのタンブラーや徒手運動などのたくましい演技が持ち味。岡山県井原市が「新体操のまち」として知られ、自前の大会や小中学生の体操クラブを設ける。西宮今津高校男子新体操部の2代目顧問、井上正さん（38）らが一環指導に力を注ぐ。

今津高OB 選手育成の原動力に

2000年春、西宮今津高に戻り、OBで初めての男子新体操の指導者になった。翌年教諭に採用され、3代目顧問として約10年間指導、個人・団体でインターハイに導くなど、発展させた。今春大江さんが異動、高校・大学で1年後輩の荒井剛教諭（32）が赴任し、顧問に。7年ぶりにインターハイに出場し、近畿勢最高の団体11位、個人19位に輝いた。OB2人による指導が実を結んだ格好だ。

◇ 2009年秋、西宮市の「スポーツクラブ21」の団体として、「南甲子園体操クラブ」が誕生した。大江さんが、04年から地域の小中学生への指導をボランティアで続け、地域に活動



南甲子園体操クラブの団体の練習＝西宮市南甲子園3、南甲子園小学校

をアピールするなど、浸透も図る。誠さんは、今春異動した尼崎西高でも男子新体操を指導する。隣接の成文小学校の児童が高校体育館で新体操を学ぶ体制を整え、募集に乗り出した。誠さん、豪さん兄弟は「地域で種まきし、高校に行っても新体操ができる」と力を込めた。

◇ 10月に東京である「全日本ジュニア新体操選手権大会」への出場を決めたのは、同クラブの鳴尾中学校1年西原昌希君（12）と、真砂中学校2年山本裕幸君（13）。2人は2年前、「バツク転がやりたい」と入部した。西原君は新体操の魅力を「新しい技が次々に見えるようになるのが楽しい」。放課後、毎日西宮今津高で練習している山本君は「全国ではミスのない演技をしたい」と誓った。2人は卒業後の進路について「西宮今津で新体操を続けたい」と話す。

選手育成には地域の協力と理解が不可欠だ。2人を指導する豪さんは、練習環境の充実を課題の一つに挙げる。「県外には新体操で自由に利用できる練習場もある。常にマットが敷かれ、男女共に使える公的施設があれば、児童生徒が平日に練習できる」と力を込めた。